

1.準備編

理論を扱う上でまず必須の知識を確認します。

1-1.音名

ドレミファソラシが

CDEFGABに対応します。

1-2.長音階と短音階

ジャズといっても、やはり基本は長音階と短音階からです。もうお馴染みかとは思いますが念のため。

Cメジャー・スケール

Cマイナー・スケール

1-3.度数

では次に度数です。2音の距離を表すのに使います。度数をきちんと理解しているか否かで随分この後の理解度も変わってきます。頑張りましょう。まずは音の種類からです。

C, C#, D, D#, F, F#, G, G#, A, A#, B

以上の計12音があります。つまり、2音間の距離は12通りあるわけです。まずは基本となるCメジャー・スケールからいきましょう。

Cを基準に、

D	E	F	G	A	B	C
長2度	長3度	完全4度	完全5度	長6度	長7度	完全8度

となります。

ここでひとつルールがあります。4度と5度には完全、他は長がくっつきます。

続いて残りの5音との距離ですが、長短と増減で表します。＃は半音上げる臨時記号なので長または増。♭は半音下げる臨時記号なので短または減が対応します。完全がつく度数には増減をつかい、他は長短で表します。

以上をまとめると、

C#/D♭	増1度	短2度
D	長2度	
D#/E♭	増2度	短3度
E	長3度	
F	完全4度	
F#/G♭	増4度	減5度
G	完全5度	
G#/A♭	増5度	短6度
A	長6度	
A#/B♭	増6度	短7度
B	長7度	
C	完全8度	

これで全ての距離を表せました。

さて、次は基準音を変えてみましょう。

Gを基準にするとうなるでしょうか。

A	長2度
B	長3度
C	完全4度
D	完全5度
E	長6度
F#	長7度
G	完全8度

となります。注意すべきは長7度のF#音です。

基準音を動かしても距離自体は変わらないので、FではなくF#音が長7度となるのです。他のどの音を基準に変えても同じなので気をつけましょう。

増2度とは...

ここまでで説明した度数表記で、基本的なこの後の話は問題なくついていけるはずですが、実は増2度や減3度といった音程も存在します。正確な長短増減の定義を載せておきます。

長、または完全より半音上	増音程
長、または完全より2半音上	重増音程
短、または完全より半音下	減音程
短、または完全より2半音下	重減音程

1-4.度数の拡張と展開

これで晴れてすべての音を相対的に表すことができました。しかし、この後の話にも登場しますが、和音というものは3度重ねが基本構造です。つまり1度から順番に、

長3度、完全5度、長7度、長2度、完全4度、長6度

と重なっていきます。ジャズにおいては2オクターブ分上まで重ねていくことが当たり前のように発生します。この時長7度の次は、長2度となります。間違いではないのですが数字が戻ってしまいまどろっこしいので、そのまま延長していきます。

長3度、完全5度、長7度、長9度、完全11度、長13度

のようになります。(奇数しかでてこない)

対応関係は、

2度	9度
3度	10度
4度	11度
5度	12度
6度	13度
7度	14度
8度	15度

です。実際問題として、灰色表記の度数は減多に使わないので、9,11,13度をすぐ読み替えられるようにしましょう。

1.準備編

今までは度数を、基準から上に上に見てきました。最後に下にみるとどうなるか、やってみましょう。ジャズにおいてはこの上下の読み替えが1番大事だったりします。

B	短2度下
A	短3度下
G	完全4度下
F	完全5度下
E	短6度下
D	短7度下
C	完全8度下

このようになります。

以上を踏まえて、最後に度数の読み替えをまとめてみましょう。

E音はC音からみて長3度上であり、短6度下になります。

つまりオクターブ差を考えなければ、長3度も短6度も同じ音名ということです。

同様に、A音は長6度上かつ短3度下です。さらに度数を拡張したときのように、長13度上でも同じです。

とてもややこしくなってきましたが、まとめます。

	上		下	
C#/D♭	増1度	短2度	長7度	
D	長2度		短7度	増6度
D#/E♭	増2度	短3度	長6度	
E	長3度		増5度	短6度
F	完全4度		完全5度	
F#/G♭	増4度/減5度			
G	完全5度		完全4度	
G#/A♭	増5度	短6度	長3度	
A	長6度		増2度	短3度
A#/B♭	増6度	短7度	長2度	
B	長7度		短2度	増1度

こうした読み替えが瞬時に出来るようになるにはなかなか時間がかかりますが、少しずつ頑張ってください。

1-5.コードの基本とコードシンボル

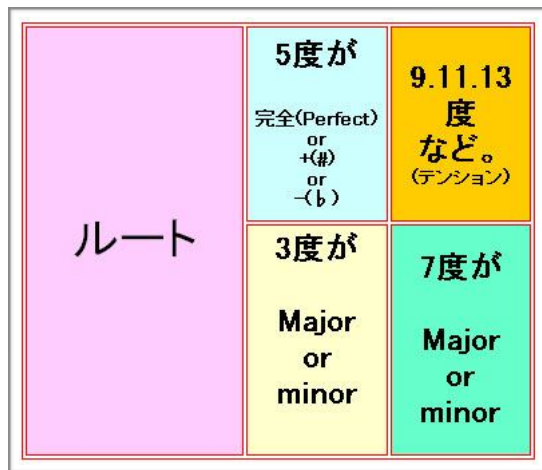
基本音階と度数についてわかったところで、いよいよコードに入ります。

コード、つまり和音は原則として3度重ねとなっています。種類は以下の6種類が主なものです。

I△7	Root	M3	5th	M7
Im7	Root	m3	5th	m7
I7	Root	M3	5th	m7
Im7♭5	Root	m3	♭5th	m7
I dim	Root	m3	♭5th	6th
I aug	Root	M3	#5th	/

セッションでよく演奏される曲のほとんどがこの6種類のコードで構成されているため、これさえ覚えてしまえばもう大丈夫です。

ジャズにおけるコードの基本構造はこのように3または4声ですが、図にもあるようにテンション(後述)が指示されていることもあります。この場合は指示された度数の音を一緒にならずとより合ったサウンドになる、ということですが、初めのうちは無理に弾かなくてもよいと思います。



コードシンボル凡例